

## (神経精神科)

○平澤 伸一・河合 真・古城 慶子・  
玉木恵美子・仲谷 誠

われわれは昭和41年1月1日から昭和50年12月31日の10年間に、東京女子医大神経精神科外来をおとずれた初診患者9,893名について、統計的研究をおこなった。すでに昭和48年にされているが、今回もほぼその主旨をひき継ぎ、それ以降の資料について集計をおこなっている。ただし、そこで述べられていたように、当教室の診断基準は昭和40年以来大体確定したとされて、今回の集計の対象期間の全体はそれ以降の時期に包摂されてしまうため、前回の集計とは異なり、「その時期ごとに同じ基準」の下にはなく、全期間を通じておおよそ同基準の下に診断されている材料を得る事になった。したがって、当科でとりわけ問題になる事多い内因性精神疾患についての興味深い結果が見出される訳である。すなわち、診断基準の変遷を映し出す面は退き、内因性精神疾患の性質の一面を統計的観察によつて見てゆくところに今回の集計の主たる目的の一つがある。

まず、対象期間中の外来初診患者の診断別、性別、来院時年齢別、初診日別の集計を各年度ごとにおこない、それを原資料として以下の各項目についてまとめ、考察を加えた。

- 1) 各年度の全初診患者の性別、年齢別、来院月別分布および各年度の患者総数の変遷を示した。
- 2) 診断別に集計し、各群がその年度に占める百分率の変遷を示した。
- 3) 内因性精神疾患群について各年度ごと、診断の各類型ごとに年齢分布、月分布、性別を示した。

### 23. 原発不明癌の検討—放射線治療患者を中心に— (放射線科)

○和貝 恵子・喜多みどり・宮崎麻知子・  
有竹 澄江・大川 智彦・河原よし子・  
池田 道雄・田崎 英生

われわれは1968年より1975年5月までに当科を受診した患者約6,500名のうち、放射線治療開始までに原発巣の判明しなかつた33例の悪性腫瘍患者を経験した(平均年齢52歳、男13例、女20例)。

これらを初発部位、組織型、生存率を中心に検討し、さらに UICC (1979) による C-Factor との関係につき検討を加え、以下の結果を得た。

当科受診患者に対する原発不明癌患者の頻度は約0.5%であつた。

初発部位は33例中8例が頸部リンパ節、4例が鎖骨窩リンパ節、2例が腋窩リンパ節、2例が肩胛リンパ節、3例が肺、1例が肝、5例が腹腔内、3例が骨髄内、2例が骨、1例が脳、2例が皮膚および皮下組織であつた。

組織型は33例中扁平上皮癌が5例、腺癌が18例、未分化癌が6例、その他が4例であつた。

C-factor に関しては、C<sub>2</sub> すなわち特殊検査により原発巣の判明したものが2例、C<sub>3</sub> すなわち手術時肉眼所見で判明したものが1例、C<sub>4</sub> すなわち手術切除標本の組織学的検査で判明したものが1例、C<sub>5</sub> すなわち剖検時に判明したものが6例で、残りの23例については現在に到るまで原発不明のままである。

33例の原発不明癌患者の粗生存率は、6カ月生存44.4%(12/27)、1年生存29.1%(7/24)、2年生存9.0%(2/22)であつた。初発部位がリンパ節であつた群とそうでない群とでは前者の6カ月、1年、2年生存がそれぞれ9/15、5/14、1/6であつたのに対し、後者では4/14、2/8、1/6であつた。組織型では、扁平上皮癌の6カ月、1年、および2年生存がそれぞれ3/4、2/3、1/2であつたのに対し、腺癌では7/14、3/12、1/11、未分化癌では1/5、1/5、0/5であつた。また、剖検も含めて原発巣の明らかとなつた症例の6カ月、1年、および2年生存が、それぞれ2/9、1/9、1/9であつたのに対し、最後まで原発の不明であつた症例では10/16、6/13、2/11であつた。

### 24. 免疫能からみた胃癌所属リンパ節の郭清範囲について

(消化器病センター外科)

○小川 健治・鈴木 博孝・矢川 裕一・  
大谷 洋一・喜多村陽一・榎原 宣

癌腫の根治手術として、所属リンパ節を含めた広範な郭清手術が今日、広く行なわれている。

一方、その所属リンパ節は担癌宿主における生体防禦機構の一環をなしており、抗腫瘍性発現の場であることも明らかにされている。このような腫瘍免疫学的な観点からみれば、所属リンパ節を含めて切除する郭清手術に、癌治療上意義を認めうるのであろうか。

この問題を解明する目的で、所属リンパ節、第3群までの郭清手術がなされた胃癌20症例およびその所属リンパ節361個を対象として検索した。

摘出したリンパ節は半切して、一半で転移の有無や、リンパ節反応形態など病理組織学的な検索をなし、他半からはリンパ節リンパ球の浮遊液を作成、T細胞比、お